

---

# 幼なじみ

朝霧幸太

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

幼なじみ

### 【Nコード】

N0883Q

### 【作者名】

朝霧幸太

### 【あらすじ】

ショートストーリーですので、あらすじは記しません。

(前書き)

この作品は、お題を元に書きました。

釣瓶落としては、よく言ったもんだ。

この頃は、陽が落ちるのがめつきり早くなった。僕は、番犬の小太郎を連れて散歩に出る時間を早めたぐらいだ。

「あれは？」

ふと見ると夕暮れの道をこちらへ向かって誰かが歩いて来る。

女性だ。可奈子か？

やっぱり！

幼なじみの可奈子だ。おさげ髪に結んだりリボンを揺らしながら彼女が歩いて来る。おさげ髪にリボンなんて今時には珍しい。

素朴な可愛らしさと言っただろうか。

それでも街灯に照らし出された、その風貌は昔に比べれば、ずいぶん大人びて見える。

彼女は、県下の公立高校に進学した。進学塾でも常にトップだった。同じ塾でもSSクラスは授業の内容が違う。出来が違う過ぎて、僕は声も掛けられなかった。

だけど、この場合は挨拶するべきだろうな。

「……何と言おうか？ よおつ、元気か？ 勉強、頑張ってるんだってな。いや、そんなわかりきった事を今更……。もつと何か気の利いたセリフを。」

彼女が近づいて来た。

「小太郎！」

「えっ？」

彼女の方から声を掛けて来た。

「小太郎！ 久しぶりね。元気だった？」

彼女は小太郎に走り寄り、頬ずりして嬉しそうに笑っている。

「そっちかよ！」

「遼ちゃんも元気そうね」

「……もかよ。……もなのか？ 犬への挨拶のついでかよ！」

了

(後書き)

お題

リボン

挨拶

街灯

から書きました。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0883q/>

---

幼なじみ

2011年1月16日05時36分発行